

## 通園施設における障害のある子どもの祖父母に対する支援†

今野 和夫\*

秋田大学教育文化学部

障害のある子ども（孫）を持つ祖父母に対する支援は、通園施設における家族支援の重要な部分である。しかし祖父母に対する支援の重要性は、これまでの専門的な支援では軽視されている。

本研究では、祖父母に対する支援について、通園施設を対象とした質問紙調査を行なった。また4人の祖父母に面接調査を行なった。この4人の祖父母は、障害のある子ども（孫）の養育上大きな責任を負っていた。

質問紙の結果より、通園施設（n=11）は祖父母に対する支援を、個別的な相談や家庭訪問など様々な形で行なっていることが明らかにされた。4人の祖父母への面接からは、彼らが子どもの成長を強く願っていることや、子どもの将来に不安を抱いていることが明らかになった。また祖父母の言葉は、障害のある子どもの祖父母と親に対する専門的支援のあり方を考える上で、示唆的なものであった。

質問紙調査と面接調査のデータを手がかりに、専門機関における祖父母支援の今後の方向性を考察した。

キーワード：障害のある子どもの祖父母、通園施設、専門的支援

### I 問題と目的

同居している場合もあれば別居している場合もあり、またその関係のありようは家によって様々であり、かつ時を経て変化しうるものであろうが、障害のある子ども（孫）と祖父母の関係や、子どもの親と祖父母の関係が20年を越える長い年月に及ぶことは、決してめずらしくない今日である。

一方、障害のある子どもの家族についての研究や家族に対する専門的な支援において、祖父母は比較的影の薄い存在である。筆者は先行研究<sup>(1)</sup>で、母親のみに過重な責任や負担がかからない「家族全体」に対する専門的支援の充実を目指す上でも、祖父母の心理や、祖父母と親や子どもの関係についての研

究を進展させる必要があることや、専門機関における祖父母支援のあり方を実践的に究明する必要があることを指摘した。

また、障害のある子どもの家族に対する今後の家族支援において祖父母支援の充実が重要な側面であると考え、父方祖母と同居する母親30名（子どものCAは2歳7ヶ月から7歳3ヶ月）に対して質問紙調査を実施した<sup>(2)</sup>。その結果、祖母と自分の関係、子どもと祖母の関係、子どもや自分に対する祖母の影響、祖母に対する子どもの影響等について、障害のある子どもの母親たちは非障害の子どもの母親たちよりも総じてネガティブな意識をもっていることが明らかとなり、祖父母の存在や影響を視野に入れた家族支援の究明の必要性が示唆された。関連して、この母親たちは非障害の子どもの母親たちよりも高い比率で、子どものことでの相談相手・話し相手が祖母にもいればよいと考えていること、半数を超える母親が、通園施設や療育センターのような専門機関で祖父母たちが学習・親睦・交流できる機会を作っ

2003年1月22日受理

†Helping Grandparents with Handicapped Grandchildren—Survey and Interview Research

\* Kazuo KONNO, Faculty of Education and Human Studies, Akita University, Akita

てほしいと考えていることも、明らかにされた。

本研究は、小学校就学前の通園施設という場での祖父母支援のありかたについて具体的・实际的に考究することを主たる目的とし、そのために方法の異なる2つの研究を行なった。

すなわち研究1として、全国にある難聴幼児通園施設に対して質問紙調査を実施し、祖父母支援の必要性についての考え、祖父母支援の実際、子どもの養育の負担が大きい祖父母の存在やその負担内容等について、明らかにしようとした。

また研究2として、現に通園施設と直接的に関わらざるを得ない状況にある祖父母、つまり子どもの親の側の事情により園への送迎を含めて子育ての大きな負担を担っている4名の祖父母に対して、面接を行なった。そこでは、専門機関（秋田市内にある難聴幼児通園施設、以下○園と略記）とのかかわりに対する感想や、専門機関が祖父母支援に前向きに取り組むことについての意見とともに、子どもに障害があると知らされて間もない頃の心境や、子どもに対する日頃の思いを尋ねた。

そして、以上の質問紙調査と面接の結果に依拠して、通園施設等の専門機関における祖父母支援のあり方について考察した。なお面接は、質問紙調査に先立ち、祖父母支援に関する別の研究の一環として行なわれたものである<sup>3)</sup>。

## II 研究1：通園施設に対する質問紙調査

### 1. 対象施設等

全国の難聴幼児通園施設17園に質問紙を送付し（2002年10月）、11園（以下、a園からk園として言及）より回答を得た。回答者は施設長が4名、主任指導員が4名、その他である。回答者の在職年数は、2名（3年と5年）を除いて、15年から22年に及んでいる。どの施設も、設立後20年から30年弱の歴史をもっている。通園児数は、16名から50名の範囲である。聞こえのみに障害がある子どもが通園しているのは2園で、その他の園には、聞こえの障害と発達の遅れを併せ持つ子どもや、聞こえの障害が認められない発達に遅れがある子どもも通園している。

質問紙の内容（表1参照）は、「祖父母や親からの相談」、「祖父母支援の必要性及び支援」、「祖父母の影響」、「負担の大きな祖父母」に関するものである。

## 2. 結果

表1には、質問項目の詳細と結果が記されている。

### (1) 祖父母や親からの相談

ほとんどの施設が、祖父母や親から相談を受けている。

祖父母からの相談内容（自由記述、表2）は多様であるが、①祖父母に関すること、②親に関すること、③子どもに関することに大別できる。①には、祖父母から子どもや親に対してのかかわり方や協力の仕方、その内容などがある。②には、両親の関係、母親の養育法、両親と祖父母の関係などがある。③には、子どもの可能性、子どもの障害、遺伝などがある。

表2 祖父母からの相談内容

#### ①祖父母に関すること

- ・両親・子どもに対する自分の振るまい方について。(b園)
- ・協力の仕方。(d園)
- ・子どもへのかかわり方。(k園)
- ・食事やおやつやり方。(d園)
- ・しつけの考え方。(d園)
- ・自分たちが手伝えることがあれば教えてほしい。(h園)
- ・祖父母としてやるべきこと。(f園)

#### ②親に関すること

- ・実父母の離婚・別居。(c園)
- ・母親の養育方法。(c園)
- ・嫁の子育てへの疑問。(e園)
- ・嫁への不満。(e園)
- ・両親が全く子どもの様子について話をしてくれない。(h園)

#### ③子どもに関すること

- ・教育の可能性（普通小に行けるか、話すようになるか。(f園)
- ・将来の展望。(e園)
- ・遺伝等について。(b園)
- ・障害についての理解。(c園)
- ・障害の内容。(e園)
- ・遺伝するのか。(h園)
- ・障害のことについて（治るのか）。(k園)
- ・子どもの障害の有無や程度について。(j園)
- ・子どもの言葉について。(i園)

次に、祖父母のことでの親からの相談内容（自由

表1 難聴幼児通園施設(11園)の祖父母支援にかかわる回答

<p><b>1. 祖父母や親からの相談</b></p> <p>・祖父母からの相談の有無 (これまで祖父母から相談を受けたことがありますか)</p> <p>イ. はい(有) 10/11 ロ. いいえ(無)</p> <p>・親からの相談の有無 (これまで祖父母のことで親から相談を受けたことがありますか)</p> <p>イ. はい(有) 8/11 ロ. いいえ(無) 2/11</p>	<p>・祖父母の存在：親にとり (一般的に言って障害のある子どもの親にとり祖父母はどのような存在になっていると思いますか)</p> <p>イ. 非常に好ましい影響 ロ. 好ましい影響 2/11 ハ. どちらかという好ましい影響 1/11 ニ. どちらとも言えない 4/11 ホ. どちらかという好ましくない影響 3/11 ヘ. 好ましくない影響 ト. 非常に好ましくない影響 チ. その他 2/11</p>
<p><b>2. 祖父母支援の必要性及び実施</b></p> <p>・祖父母支援の必要性 (祖父母に対して貴施設として何か具体的な支援を行う必要性を感じておられますか)</p> <p>イ. 強く感じている 1/11 ロ. 感じている 6/11 ハ. 少しは感じている 3/11 ニ. 感じていない 1/11</p> <p>・祖父母支援の実施 (貴施設ではこれまで祖父母に対して何か具体的な形での支援を行っていますか)</p> <p>イ. はい 8/11 ロ. いいえ 3/11</p> <p>*支援内容(複数選択可)</p> <p>イ. 祖父母向け学習会 ロ. 相談があれば個別に 7/11 ハ. 祖父母参観日 3/11 ニ. 敬老の日に招待 ホ. その他 8/11</p> <p>・祖父母・親関係困難ケース対応 (これまで祖父母と親の関係が好ましくない状況にあるケースに対して何らかの対応をしたことがありますか)</p> <p>イ. はい(有) 10/11 ロ. いいえ(無) 1/11</p>	<p>・祖父母の言動が親に非常に好ましくない影響を及ぼしたケースの有無 (これまで同居か別居かによらず祖父母の言動が親に非常に好ましくない影響を及ぼしていると考えられるケースがありますか)</p> <p>イ. はい(有) 10/11 ロ. いいえ(無) 1/11</p> <p>・祖父母の言動が親に非常に好ましい影響を及ぼしたケースの有無 (これまで同居か別居かによらず祖父母の言動が親に非常に好ましい影響を及ぼしていると考えられるケースがありますか)</p> <p>イ. はい(有) 11/11 ロ. いいえ(無)</p>
<p><b>3. 祖父母の影響</b></p> <p>・祖父母の存在：子どもにとり (一般的に言って、障害のある子どもにとり祖父母はどのような存在になっていると思いますか)</p> <p>イ. 非常に好ましい影響 ロ. 好ましい影響 4/11 ハ. どちらかという好ましい影響 1/11 ニ. どちらとも言えない 4/11 ホ. どちらかという好ましくない影響 ヘ. 好ましくない影響 1/11 ト. 非常に好ましくない影響 チ. その他 1/11</p>	<p><b>4. 負担の大きな祖父母</b> (貴施設にはこれまで親の側の事情によって子どもの養育に関わる負担が非常に大きくなっていると思われる祖父母がいますか)</p> <p>イ. はい(いる) 11/11 ロ. いいえ(いない)</p> <p>*親の側の事情(複数選択可)</p> <p>イ. 離婚により子どもを父親が引き取るが、子育てに対する父親の関わりが少ない。 6/11 ロ. 離婚により子どもを母親が引き取るが、子育てに対する母親の関わりが少ない。 7/11 ハ. 離婚により子どもを父親が引き取るが、父親が病気になる。 ニ. 離婚により子どもを母親が引き取るが、母親が病気になる。 1/11 ホ. 両親はいるが、子育てに対する関わりがどちらも少ない。 3/11 ヘ. 両親が共働きしている。 5/11 ト. その他 3/11</p> <p>*祖父母がしていること(複数選択可)</p> <p>イ. 貴施設への送り迎え 8/11 ロ. 貴施設での療育・指導への付き添い 9/11 ハ. 親が仕事から帰るまでの子守 5/11 ニ. 子育て全般を親代わりで 8/11 ホ. その他</p>

記述、表3)には、子どもやその障害についての祖父母の理解の問題、祖父母からの責任の言及、親の接し方に関する祖父母からの指摘、子どもに対する祖父母のかかわり方、障害受容の祖父・祖母間の違いなどがある。

表3 親からの相談内容

- ・理解が足りない。(d園)
- ・障害理解の問題。(e園)
- ・障害児を生んだこと責任。(e園)
- ・祖父母に子どものことをどのように話し理解してもらえばよいのか。(h園)
- ・発達の遅れについて母親の接し方を指摘された。(i園)
- ・祖父母間で障害の受容が異なる。(k園)
- ・祖父母の子どもへの関わり方。(k園)
- ・嫁姑間のよくあるトラブル。(k園)

## (2) 祖父母支援の必要性及び支援

ほとんどの施設が、程度の差はあれ祖父母に対する支援の必要性を感じている。そしてほとんどの施設が、これまで実際に具体的な支援を実施しているが、祖父母と親の関係が好ましくない状況にあるケースへの対応も経験している。

すなわち、11園中9園が祖父母に対する具体的支援の必要性を感じており(「少しは感じている」の2園を含む)、その理由としては(自由記述、表4)、親への協力や親との相互理解、子どもへの対応や障害理解、負担が大きくなっている祖父母への援助、支援観(家族全体の理解と受容、e園)といった点に関わることが、挙げられている。

表4 イからロのいずれかを選んだ理由

- ・保護者を支える上で必要。(a園)
- ・子育てへの影響力。(b園)
- ・祖父母が両親を直接・間接にカバー・協力したり、祖父母の子どもへの対応で問題があったりする事例があるので。(c園)
- ・親戚家族の理解と協力が父母に必要なため。(d園)
- ・両親のみならず祖父母・兄弟・姉妹も含め、家族全体の障害の理解と受容の中での支援が重要と考えているから。(e園)
- ・祖父母にも障害理解が必要なため。(f園)
- ・母親が通所できないという場合に代わりに来る祖父母への援助は重いものがあり、具体的な方法がとれてい

ない。(g園)

- ・療育に対して主に母親と意見の食い違いがある。(h園)
- ・子どもの療育に対して否定的であったり、母親の育児のやり方に責任を負わせる言動を母親が口にしており、家族内での子育ての方針(考え方)が一貫していない。(h園)
- ・障害のあるお子さんの療育体制を整える上で、祖父母の協力が必要な場合もあるため。(i園)
- ・障害に対する理解を深め、子どもとの関わりを深めることが必要と思われる。(k園)

次に、11園中8園が祖父母への具体的な支援を実際に行なっているが、それは「祖父母からの相談に応じて個別に」という園が多い。続いて、祖父母参観日を設けているところも2園あった。その他の内容は、家族参観や運動会などの行事への参加を祖父母にも案内する(5園)、家庭訪問(2園)、行事にこだわらずいつでも自由な来園を勧める(2園)、家族研修会への参加を呼びかける(2園)等である。なお質問紙では、具体的な支援を行なった感想の記述も求めているが、家族研修会への参加を呼びかけている2園が、それぞれ「家族全体で子育てに取り組む姿勢を得ることに役立っていると思う。」とか「祖父母の参加により全員での支え合いが認められ、障害理解と偏見がなくなりつつある。両親、特に母親への思いやりが深まった。」という感想を記している。

さらにほとんどの園(11園中10園)が祖父母と親の関係が好ましくない状況にあるケースに何らかの対応をしたことがあると回答している。表5には、どういう状況にあるケースにどのような対応をしたのか、その結果や効果を含めて自由記述を求めたものである。

好ましくない状況やその原因についての具体的な記述は少ない。一方、対応については、来園したとき(指導場面への参加などの呼びかけによるものを含む)や、家庭訪問をして、職員が相手と直接話しをすることが多い。その際に祖父母への具体的な指導(b園)や関係者双方の巻き込み(親と祖母、e園)を行なっている園もある。h園やk園の記載からは、祖父母に伝える情報や話題の適切な選択の重要性が示唆される。j園の記述は、家庭訪問が好ましくない結果をもたらすこともあることを示している。

表5 どういう状況にあるケースにどのような対応をしたのか

\* a 園

- 一方の話のみを聞いて対応するのは片手落ちになるので、カウンセリング中心。
- 祖父母の言動が親に非常に好ましくない影響を及ぼしていると考えられるケースに対して、家庭訪問等を通して祖父母と知り合い・話し合い（何度でも）理解を得る。

\* b 園

- 指導の場面に参加を呼びかける。
- 担任が家庭訪問をして具体的に指導した。それによって理解してもらい少しずつ変わっていった。

\* d 園

- 父親を呼んで話しをし、祖父母に伝えてもらう。
- 来訪してもらったり家庭訪問などにより、施設職員として直接働きかけることがより説得力を有した。

\* e 園

- 家庭訪問指導の実施（朝から夕方まで家庭でのつき合い方を親とともに祖母も巻き込んで実施）。

\* f 園

- ご両親がお子さんの障害受容不十分で、適切な対応ができず、しばらく祖父母宅に預けることを勧め、子どもはずいぶん変わりましたが……今後のことはわかりません。

\* g 園

- 祖父母に来園していただいて話し合いをした。

\* h 園

- ケースによっては信頼できる医療機関を紹介して検査の必要性を直接医師から話をしてもらう。難聴についての話や補聴器の仕組みや効用などを話す。集団生活（保育）の大切さとそこに参加するまでに大切となる子育て援助を話す。経済的な面では福祉の制度なども説明。
- 来園してくれる祖父母は両親の子育てに対して協力者となってゆく場合が多いが、時に発達遅れの子どもたちに触れて通園を好ましく思わないケースもあった。
- 祖父母の方にも訓練の見学をしていただいた。現状を説明し原因なども話して、今後の療育環境について話したところ、少しずつではあるが協力的になっていった。

\* i 園

- 家庭訪問をし、母親がいきいきと子どもと関わるができるような協力をお願いした。

\* j 園

- かえって祖父母に警戒心を持たれ母親がづらい立場に立たされた。

\* k 園

- 障害受容に関することで、行事などで来園したときに話しをした。

(3) 祖父母の影響

表1に見るように、子どもや親に対する祖父母の影響について、「好ましいとも好ましくないともどちらとも言えない」が11園中4園である。その他は、どちらの場合も、「ケースバイケースで一概に言えない」というものであった。

祖父母の好ましい影響性は、親よりも（11園中3園）子どもに対して（11園中5園）向けられているが、母数が少ないため断定的なことは言えない。

次に大概の施設が、祖父母の言動が親に非常に好ましくない影響（11園中10園）や、逆に非常に好ましい影響（全園）を及ぼしているケースがあると回答している。質問紙ではその内容についても記述を求めており、その結果が表6と表7に記されている。

非常に好ましくない影響を及ぼす祖父母の言動内容には、子どもの障害やその受容に関すること（難聴を受け入れられない。大きな病院でしっかりわかるような検査を。補聴器などみっともない……耳を隠すように。）、障害の原因に関すること（家系にはいない。こんな子を生んで。反対してたのに結婚したからこんな子が。）、親の子育てに関すること（祖父母の過干渉。無関心。育て方がよくないという。甘やかしている。子守りばかりしないで家事をするように。働かないで子どもと遊んでばかりいる。等）、子どもへの祖父母のかかわりに関すること（しつけを厳しくする。）、宗教に関すること（信仰を強制する。信心が足りない。等）、教育や保育に関すること（遅れている子どもの中にいるから成長しない。早く親から離れて保育園に入れた方がよい。）などがある。

表6 親への非常に好ましくない影響

\* a 園

- 難聴を受け入れられない。

\* b 園

- 家系にいないと責めるような祖父母の発言・態度。
- 母が子にエネルギーを注ぐことで家庭の仕事がおろそかになったと責める。

- 子育てへの祖父母の過干渉。
- 子育てへの祖父母の無関心。
- \*c 園
  - 子の父または母の育て方がよくないと言う言動。
  - ナーバスな子にしつけを厳しく（善意で）する祖母。
- \*d 園
  - 日頃から子どもに思いやりのある言動がない。
  - 帰郷ができない。
- \*e 園
  - 宗教的な立場から信仰などを強制すること。
  - 家系的な偏見。
- \*f 園
  - 家系にはいない。
  - こんな子を産んで、（修復できないケースにまで発展したケースは少ない）
- \*g 園
  - うちの家系には……という方も中にはいらっしゃいますが、それよりもお母さんが自分では判断できず、周囲のあらゆる人（特に両家祖父母）の意見を聞いて動き、堂々巡りをしてしまうことが多い。
- \*h 園
  - 母親の育て方が悪い。甘やかしている。この子ばかりに手をかけているからきょうだい（兄姉・弟・妹）がおかしくなる。（登園拒否・不登校・情緒不安・いじめ）
  - 一緒になるのを反対したのに結婚したからこんな子ができた。
  - もっと大きな病院に行ってしっかりわかるような検査を。
  - 補聴器などみっともないから人の目に触れるときはつけないように。耳は隠すように。
  - 遅れている子どもの中にいるから成長しない。
  - 早く親から離れて保育園に入れた方がよい。
  - 若い人はみな働いている。働かないで子どもと遊んでばかりいて。
  - 信心がたりない。本気でいつもお願いしていない。お守りをつけていない。
- \*i 園
  - 「補聴器をつけたものはうちの家系にはいない」
  - 「家への出入りはしないでくれ」と言われ、母親が心理的に不安定になってしまったことがある。
- \*j 園
  - 抱き癖をつけないように、子守りばかりしないで家事をするようになど、母子の関わりが少なくなってしまう

うようなことを母親に要求していた。

- \*k 園
  - 家系に関すること。
  - 子育てに関すること。

一方、非常に好ましい影響を及ぼす祖父母の言動内容としては、子育てや家事の面での親への協力に関すること（通園の手助け、子どもの行事への付き添い、日曜日など子どもを扱ってくれる、母親が疲れたとき子どもの相手を代わってくれる、家事を手伝ってくれる、等）が最も多くあげられている。その他には、子どもに対する祖父母のかかわりに関すること（ゆったりと遊んでくれかわいがる、祖父母として何がしてやれるかと考えてくれる、等）、障害のとりえ方に関すること（「その子の特技」とプラス思考。）、親や家族への理解（この子のお陰でよい母親になれたね、家族が協力できてよかった。）などがあげられている。

表7 非常に好ましい影響

- \*a 園
  - 通園の手助け、きょうだいの世話を積極的にしてもらえる。
- \*b 園
  - 両親の子育てへの協力・激励。
  - 子どもへの直接的関わり。
  - 経済的支援。
  - 地域社会参加の際の積極的支援。
- \*c 園
  - 社会的に未熟な母親に代わって（支えて）孫の養育・送迎（通園）に当たっている。
  - 難病の母親の代わりに祖母が遠距離を来るまで送迎している。その結果祖母（嫁方？）の障害や施設への理解、祖母と嫁のコミュニケーションも増えた。
  - 行事の際、父方・母方の祖母が交代で付き添い、協力。（姉妹ともに問題のあるケースで、母親も機転が利かない傾向）
- \*d 園
  - 祖父母も含んできょうだいとその子を中心に温かく協同体制をとってくれている。
  - 母親も気を遣わなくてよい。
- \*e 園
  - 障害を「その子の特技」と考えるようなプラス思考。
- \*f 園

- ・この子のお陰でよい母親になれたね。
- ・家族が協力できてよかった。(卒園式の家族スピーチの中で祖父母が読んだ内容)

## \*g 園

- ・体の弱いお母さんには常にどちらかのおばあさんが付き添っていらしたり、自然にやっていたらっしゃるので、たぶん大きな励ましだと思います。

## \*h 園

- ・子どもと時間をかけてゆったりと遊んでくれかわいがる。近所の人や親類にも隠したりしない。
- ・毎日育児で大変だからと日曜日など自分から子どもをみているから、気晴らしや用を足しておいでといつも子どもを扱ってくれる。
- ・兄弟の幼稚園や学校の行事等は必ず行きなさいと声をかけてくれ、子どもをみってくれる。

## \*i 園

- ・好ましい影響を及ぼしているケースはありますが、どのような言動かは確認できていません。

## \*j 園

- ・祖父母として子どもに何がしてやれるかと考えてくれる。(実父母)
- ・母親が疲れたとき、黙って子どもの相手を代わってくれる。または家事を手伝ってくれる。(実父母)
- ・子どもの将来を考えその面で母親をリードしてくれる。(実父)

## \*k 園

- ・励ましに関すること。
- ・家事や子育ての援助。
- ・通園の援助

#### (4) 負担の大きな祖父母

どの園も、親の側の事情によって子どもの養育にかかわる負担が非常に大きくなっていると思われる祖父母がこれまでいると、答えている。その事情として、「離婚により子どもを父親が引き取るが父親のかかわりが少ない」、「離婚により母親が引き取るが母親のかかわりが少ない」、「共働きをしている」を半数前後の園があげている。「両親はいるが子育てに対するかかわりがどちらとも少ない」ために祖父母への負担が非常に大きくなっているケースも、3園が経験している。「その他」も2園が選択しているが、その内容はそれぞれ、「母親の病気や母親の重複障害(a園)」、「母親の妊娠・出産期間の付き添いはかなり多い(f園)」となっている。

次に、祖父母が実際にどのようなことをしているのかみると、「施設での療育・指導への付き添い」(11園中9園)や「通園施設への送り迎え」(11園中8園)、「子育て全般を親代わりで」(11園中8園)が多く選択されている。「親が仕事から帰るまでの子守り」も、半数ほどの園があげている。

最後に、負担が非常に大きくなっていると思われる祖父母に対して、園として何か特別な配慮や支援を行なっていることの記述を求めた結果が表8に記されている(11園中7園記述)。家庭訪問指導、行事や保護者研修会、指導への参加案内、福祉的・社会的サービスの紹介といった支援の他に、「祖父母が理解しやすいような説明」、「ねぎらいと励ましの言葉」、「愚痴を聞く」、「身体的に負担となりそうな活動はできるだけ職員が援助」、「年齢差のある他の子の母親などと一緒の話し合いや座談会の時は話しやすい雰囲気にもっていく」といった配慮が記されている。

表8 負担の大きな祖父母への配慮や支援

## \*c 園

- ・祖父母が理解しやすいような、子どもの状態の説明。
- ・祖父母へのねぎらいと励ましの言葉。
- ・担当以外の職員の共通理解の醸成。
- ・行事・保護者研修会等への誘い。

## \*d 園

- ・父母同様の指導で行い協力してもらっている。

## \*f 園

- ・家庭訪問指導。
- ・指導日の付き添い(母親と同じ体験)。
- ・行事への誘い。(他児や上の子の成長を見ることで可能性への期待を持つ)

## \*g 園

- ・おばあちゃんの愚痴を聞くことや利用できる福祉サービスの紹介ぐらいしかできません。

## \*h 園

- ・身体的に祖父母にとって負担となりそうな活動はできるだけ職員が援助していく。
- ・年齢差のある他の子の母親などと一緒の話し合いや座談会の時は職員が配慮して話しやすい雰囲気にもっていく。
- ・ショートステイや一時預かりなど公的な社会資源を紹介し、利用を勧める。

## \*j 園

- ・家庭訪問等何度かの話し合いの上で、聾学校への入学を勧めた。家族としてのバランスをとることが大切（兄姉もいるので）との視点で。

\*k 園

- ・訓練まで同室時に配慮する。

### 3. 考察

難聴幼児通園施設に対する質問紙調査の結果（研究1）、多くの通園施設が祖父母に対する具体的な支援の必要性を感じていること、そしてこれまで、祖父母と親の関係が好ましくない状況にあるケースへの対応も含めて、祖父母に対して実際に支援を行っていることが明らかになった。

支援は、親を介しての間接的なもの以外に、希望に応じて園であるいは施設側から家庭に赴いて個別に相談を行なう、祖父母に指導場面の見学を呼びかける、祖父母参観日を設けるというように、様々な直接的な取り組みが認められた。反面、園への訪問中に他の障害の子どもたちに触れて通園を好ましく思わなくなったケースがあったり（h 園）、祖父母に警戒心を持たれ母親がづらい立場に立たされたケース（j 園）もあげられており、祖父母支援は様々な要因に配慮して慎重に実施する必要があることが示唆される。ちなみにその要因としては、例えば、祖父母の健康や生活の状況、祖父母の心理や関心、障害についての理解や知識のレベル、祖父・祖母間の日頃の関係や子どもの受容状態の差違、祖父母と親の関係、祖父母と子どもの関係、支援の必要性の緊急度といったものをあげることができよう。

多くの親たちと同様に、祖父母もまた障害のある子どもたちと出会ったり障害について学んだりする機会とはほとんどなかったであろう。世間体という意識に縛られて増長される、障害のある子どもが身内にできてしまったことへのとまどいや恥の意識も存するであろう。そして、これらのことも影響すると思われるが、たいがいの祖父母にとって、障害のある子どもを受容するという事はかなり多難なことであり、親と同様、あるいはそれ以上に長い期間や多様な段階を要するものと思われる。その内容や複雑さを推定するには短い文章であるが、h 園やj 園からはいずれも祖父母の心理状態の一端（例えばh 園のケースでは、子どもの障害を認めたくない気持ち、j 園のケースでは、子どものことを他人に知られたくない気持ち、他人への不信や警戒心。）がう

かがえるし、祖父の支援に際しての祖父母の心理の把握の大切さが示唆される。

一方、祖父母との実際のかかわりでは、祖父母と知り合い何度でも話し合い理解を得る（表5, a 園）、祖父母が理解しやすいような説明（表8, c 園）、ねぎらいと励ましの言葉（表8, c 園）、年齢差のある他の子の母親などと一緒の話し合いや座談会の時は職員が配慮して話しやすい雰囲気をもっていく（表8, h 園）といったように、支援する側の辛抱強さや細やかな配慮、気配りといったものが必要であることが示唆される。

なお今日、パソコンなどの情報機器が高齢者を含む広範な世代で利用されている。パソコン（メール通信、ホームページの利用を含む）を通して祖父母が求める情報（例えば、子どもの障害や進路、教育、福祉など）を施設が提供・紹介したり、祖父母からの相談に応じたりするということが、決して希なことではなくなるかもしれない。ちなみにこのことと関連しては、「適切な情報の提供」ということが一つの課題となるであろう。障害に関わるホームページ（今日、その数は膨大なものである）を含めて、多大かつ多様な情報の提供によって、祖父母の不安や祖父母からの親に対する要求や注文を逆に膨らませてしまうことがないよう、留意する必要がある。

平成14年6月13日のある新聞（東京新聞）は、学習障害の子どもなどを対象としているある学習塾が算数ドリルを作成したという記事を、一ヶ月ほど前に掲載したところ、400件ほどの電話が殺到したが、その約1割は祖父母世代からのものであったと告げている。障害のある子どもとともに、その親（祖父母にとっては娘や息子）を助けたい、親の役に立ちたいといった強い願いに根ざす場合もあろうが、障害のある子どもに対する祖父母の「教育的関心」や「教育的関与」は、今後ますます増長していくものと予想される。そのことで親や子どもに大きなストレスがかからないように、何よりも祖父母が愛情とゆとりをもって子どもに接し、またその子どもなりの成長を喜びをもって受け止めてくれるような存在となることを重視した支援が、重視されねばならないだろう。

最後に研究1では、ほとんどの施設が、祖父母の言動が親に非常に好ましくない影響や、逆に非常に好ましい影響を及ぼしていると考えられる、双方のケースをこれまで経験していると回答した。また、

どの施設にも、親の側の事情によって子どもの養育にかかわる負担が非常に大きくなっていると考えられる祖父母がこれまでいることが明らかになった。双方のケースについても、負担が大きくなっていると考えられる祖父母の存在についても、各施設における例えば各年度の頻数のようなものは、今回は明らかにしなかった。

子どもに障害がある場合に限らず、十代での妊娠や親のドラッグ、離婚による母親や父親との別離などによって、アメリカでは親に代わる主たる養育者としての祖父母 (grandmother caregiver, custodial grandparents) の役割が見直されつつある。そしてその役割の実態把握とともに、そのような状況にある祖父母の心理の究明や心理面へのサポートも進められつつある<sup>(4),(5)</sup>。

就学前のみならず、それ以降の中学生や高校生、時には学校卒業後も、祖父母が自分の健康や老い先に大きな不安を抱えながら子ども(孫)の世話を親に代わって担い続けているケースは、我が国の障害のある子どもについても散見しうる。このような実態(祖父母への身体的・精神的負担を含めて)がどれほどのものであるかについて、通園施設の域を超えた広い把握が急がれよう。また、このような祖父母に対する支援やその充実が、通園施設の中ではもちろんのこと、教育、医療、福祉、行政を含む広い分野において、長い時間のスパンで、家族支援の重要な部分として、図られていく必要がある。

### Ⅲ 研究2：祖父母に対する面接調査

#### 1. 対象者

秋田市内の通園施設(O園)への子どもの送迎(週一回)を続けている祖父母4名。どの子どもも地元の保育園や幼稚園にも通園しているが、その送迎も祖父母が担っている。O園は定員30名の難聴幼児通園施設であるが、その8割ほどには、聴覚ではなく発達に遅れやつまずきが認められる。1996年11月に、施設で子ども(孫)が指導を受けている間、1時間ほど別室で面接した。

その内容は①告知間もない頃の心境、②子どもに対する日頃の思い、③専門機関(O園)との関わりへの感想、④専門機関による祖父母支援についての意見、の4点である。④については、祖父母の意見を聞く前に、海外には祖父母同士の話し合いや学習

を含む祖父母支援の実践例(例えば、アトランタスピーチスクール<sup>(6)</sup>やワシントン大学児童発達センター<sup>(7)</sup>での祖父母同士の話し合いや学習を含むワークショップ)が認められること<sup>(8)</sup>をまず伝え、そのような専門機関による支援についての考えを求めた。

回答や、それ以外の筆者との談話において、どの祖父母にも子どもを拒否するような発言や表情は認められなかった。また、子どもや親のこと、さらに自身のことで普段悩んでいることや心配していることについて筆者から助言や情報を得たいとの強い意向がどの祖父母にも感じられ、面接時間の半分ほどは筆者の方が相手の質問に答えていた。

Aさん(祖父, 66歳)。自営業。子ども5歳。発達の遅れ。子ども・子どもの両親・祖母との5人家族。祖父が他市から車で片道2時間運転しての通園。母は無口。

Bさん(祖父, 60歳半ば)。無職。子どもは5歳10ヶ月でダウン症。両親は共働き(別居)。

Cさん(祖母, 56歳)。無職。子どもは4歳3ヶ月。発達の遅れ。子ども・母(祖母の実子)・祖父との4人家族。母(子どもが3ヶ月の時に、ギャンブル好きの父と離婚)は就労しているが、「ばーちゃんの子だから」と子育ては祖母に預け気味。他町から車で片道1時間ほどを運転して通園。

Dさん(祖父, 60歳半ば)。無職。子どもは5歳で、自閉症と知的障害。3歳前に離婚した父(祖父の実子)は他の町で単身生活。普段は、子どもと祖母との3人暮らし。

#### 2. 結果

##### (1) 告知間もない頃の心境

###### ① Aさん

まったく予想しなかった。こういう結果になるうとはまったく考えなかった。最初自閉症があるのかなー、と疑ったりもした。でも最初にはいくらかはあるんだな、ショックが、でも明るくて表情も明るくてそんなに心配することはないんじゃないかと思っていた。

自分の友達には、自分から言うこともないし、別に言われなかった。別に見た目で変わったような状態ではないので、大丈夫なんではないかなと思っていたし。

###### ② Bさん

ともかく夢にも思わなかった。こういう子どもが生まれてくるということは、出発点はそこなの。

生まれた時、母の次に家族で見た。あれって思った。

今まで生まれた孫たちとは違うな、っていう感じだった。親より早く気づいた。ちょっと異常だと思ったの。そのうちに目のあたりに特徴が出て「あー」と思ったの。付近にダウンの人が住んでいたから。

真っ暗な所で夫婦二人で泣いている。あれ見て、大変だなと思った。私たちさえショック感じるのに、親たちだものなおさらだ。かわいそうに思い、どうにかしてやんねばなあと思った。親が買った本見れば大変だ。脚力や腕力がないとかマイナスのことばっかし、困ってしまう。どうしても暗い方に頭がいく。でも今は、その分かえて孫の発達・成長を喜べたのかなと思う時もある。うちの孫なんか本とは違うもの。私は左手おばあちゃんは右手を握ってぶらさげたり。愛情もって。

### ③ Cさん

病院で「遅れてます」と言われたことはあるけど、どこでももう少し様子を見ましょと。生後3ヶ月頃の母の離婚が孫に影響してるのかなと思ったり、関係ないのかなーと試してみたり。

### ④ Dさん

とにかくよく泣かれるのが大変だった。ほんと困ってしまった。最初、何でこうなったかと、母親を責める気持ちも強かった。どうやったらためになるか障害のことわからず戸惑う。こういう子との出会いも初めてだったので。

Aさんは「予想しなかった」、Bさんは「夢にも思わなかった」とその心境を述べている。一方、驚きやショック、戸惑いの中、Aさんは子どもの表情の明るさに育ちの可能性への希望を見出し、Bさんは、子どもの両親が悲嘆にくれる状況に共感しつつも、「どうにかしてやんねばなあ」と援助者としての役割を強く自覚している。Bさんは、子どもの障害(ダウン症)に関する本を読み、その悲観的な内容に戸惑いつつも、そのことかえて現実の子どもの(悲観的内容を打ち消すかのような)発達を喜べたとも述べている。CさんとDさんは、子どもに対する親の離婚の影響を懸念したこともあると述べている。特にDさんは母親を責める気持ちも強かったと述べている。

## (2) 子どもに対する日頃の思い等

### ① Aさん

特別視せず、一緒に生活していく家族の一員としてできることならなんでもやらせたい。いろんなものを見せ

教えられるものなら教えて、社会に触れさせたい。足が悪いが車なら運転できる。保育園や〇園への送迎は大変なこと。なんとか成長してほしいという気持ち。その足しになれば、大変でない。

とにかく多く子どもが集まっている所へ出したい。楽しく遊ぶ中で、自分の必要なものを子ども自身がとらえていく。

孫ゆえに広い視野を持たせたい。障害のある子どもに関心を寄せられるようになった。

### ④ Bさん

数年前、孫をおんぶして歩くおじいちゃんは私だけ。この頃おんぶして歩くおじいちゃん、見かける。私が先駆者なの。運命は決まってるから、孫たちと暮らすのが一番楽しい。

思いやりがある子でな、すばらしい。お菓子あげても「お姉ちゃんの分は?」と必ず言う。思いやりがばーっと上になじみでて、その子なりの精神がよくなってる。

本当の喜怒哀楽が初めてわかった感じ。健常児や普通の生活、自分の子育てで感じたのとは全然違う。小さな成長に大きなよろこび。将来を思って大きな悲しみ。

あの子は、どこでもいい人に恵まれて。その点は本当に幸せだと思う。

神様と同じような気持ちなんだな。嫌ならいやってはっきり言うしな。本当に純粹で。普通の子は大人の顔色うかがったりする年齢だけでも、それが無いものな。

死ぬまで一緒に遊んで、この世のつとめを終わりたい。

### ③ Cさん

一步でも進んでいってもらえればと思う。朝起きて入浴、寝るまでの間ずっと私の仕事。

### ④ Dさん

ワンクッションある。殆ど親代わりだが、「この子おかしい」と誰かに言われても「自分の責任ではない」と逃げられる部分・冷静になれる部分がある。少し我慢する。遠慮もある。甘い。手をかけてしまう。でも親みたくは叱れない。期待も大きくなりがち。

自立を妨げているのでは。私らの育て方に片手落ちがあるのでは。母のことをいつか聞かれたらどう対応するか。

母への不信感、母からの疎外感が孫に大きく影響しているはず。将来どうなるか。人とどれほどかかわれるようになるか。孫が泣くと、つい相手方(母方)にぶつけたくなる。

どの祖父母も、足の不自由さなど健康上の心配を

抱えつつも、〇園への車運転など、子どもの成長のために可能な限りのことをしたい、していきたいと思っている。Aさんは「子どもゆえに広い視野をもてた」、「障害のある子どもに関心を寄せられるようになった」と、Bさんは「本当の喜怒哀楽が初めてわかった感じ」と、それぞれ子どもへの感謝とも言える思いを表明している。とりわけBさんは、子どもに対して「敬愛」とも言える思いを抱き、子どもと関わることに自己の存在意義を見出し、自分のこれからの生き甲斐としているようである。一方、Dさんは、子どもの状態やこれらに対する離婚した母親の影響を懸念し、母方に対する不満も消えていない。自分と祖母による子(孫)育てについて不安(自立を妨げるのでは、等)と限界(親みたくは叱れない)を感じている。ただし、「自分らの責任ではない」と逃げられる部分、冷静に受けとめられる部分もあると複雑な心情を率直に述べている。

### (3) 専門機関(通園施設〇園)との関わりへの感想

#### ① Aさん

園に来て本当に良かった。毎日が新しい発見。いろんな子どもがいるとわかった。うちの子がある点ではなんぼかいいような気がしたり。

いろんな機関がある、専門家がいると前は思わなかった。

どう関わればよいか学んだ。自分の子どもは接触する時間が少なかったがなんとか育ててくれた。子どもの目線で、喜ぶ接し方を、手をかけて、言葉をかけてとよく言われるが、実際どうすればいいのか、どうすれば芽が出てくるのかわからなかった。先生たちが子どもと接しているのを見て、わかるようになった。あっ、こういうふうにすればいいんだと。

親ごさん達もまるっきり戸惑っている。ああしたら、こうしたらといっても、なかなか取り組めないというかな、迷っている。私達は、多少は子どもに接した経験があるもんだから。

#### ② Bさん

おじいちゃんにダウン症であることを教えないでいるお母さんがいた。あの時教えてくれればよかった、というのには目に見えてる。早めに言って同情してもらって、いろんな面で手伝ってもらえるような状況にもっていかねばいけねって言った。いずれわかることだもの。中には、目標を高く置いているもんだから、いつも暗い感じの親もいる。悩んでいる。

#### ③ Cさん

何から何まで、この年になって勉強させられたというか、しなくちゃならないというか。ここに来るたびにこのほどと実感。手作りおもちゃ、遊び方、つきあい方。

家に帰って、教わったことを母親にも話すことがある。めんどうくさいことはおばあちゃんがやれって言われたりするんだけど。

#### ④ Dさん

訓練の大切さ、お母さんたちがみんな一生懸命なことを知った。祖父母の協力がある家庭とない家庭、その違いが母に及ぼす影響が見えてくる。父の協力のある家とない家のそれも、協力がなければ母のいらだちも大きくなり、子どもに悪影響するでしょう。負担をみんなで分け合うと母にゆとりが。

A、Cさんは接し方について具体的・实际的に学べた、Dさんは訓練の大切さを知ったと述べている。一方、他の親や家族について感じたり気づくことも多々あるようである。Aさんは「迷いがあり助言に即した取り組みができないでいる」、Bさんは「障害名を祖父に言えないでいる」、「高く目標を置いているためいつも暗い」、Dさんは「お母さん達がみんな一生懸命」、「祖父母や父の協力がある家とない家、その違いが母に及ぼす影響が見えてくる」と述べている。

### (4) 専門機関による祖父母支援への意見

#### ① Aさん

いいこと。実際に体験した方でなければ本当の相談相手にはならないでしょう。うちの孫は言葉が学校に上がって出たよ、とか言われれば、いくらか救われると思う。情報の交換は大切。

物の考え方が昔と変わって、保育園や幼稚園の行事に、おじいさんやおばあさんうんと出てくるようになったし。大いにやってほしい。

#### ② Bさん

やっぱり、自覚以外ないと思う。子どもに対する愛情さえあれば、専門機関に行かなくてもまわりの人に一生懸命聞いて、覚える。孫が恥ずかしいという気持なら、どんなりっぱな人が話したって、暗くなる。

個人差がある。癖がついてしまって、海千山千。定年退職した人たちを集めて教育するのは不可能。

#### ③ Cさん

あればいい。しかしお互いに壁があつての話になるん

じゃないかと思う。

Aさんは「体験した人が本当の相談相手となる」、「救われる」、「情報交換は大切」、「祖父母達も昔と変わってる」と前向きの賛意を、Cさんは「しかしお互いに壁があつての話になる」と限界も指摘しての賛意を、それぞれ表している。Bさんは、祖父母達それぞれの自覚と個人差に言及して、支援には消極的な考えを示している。

### 3. 考察

まず、4人の祖父母に対する面接を通して、どの祖父母も子どもの成長を強く願いそのためならできる限りのことをしてやりたいと思う一方、Cさんの言葉（祖父母による子育ての影響、母親からの疎外感の影響。）にはっきり認められるように、子どもの将来に大きな不安を抱いていることも察せられた。どの祖父母も、子どもとのかかわり、しかも自分が大きな役割や負担を担ったかかわりが、これから比較的長い期間に及ぶこと、あるいは長い期間に及ばざるを得ないことをおそらく意識しているであろうし、このことが子どもの将来への不安の多様さや大きさに大きく影響しているものと推測される。

また今回の面接では、日頃大きな負担を担いつつも、AさんやBさんのように、子どもを通して得られたことや学んだことを認識し、そのことで子どもに対する愛情もまたより深いものとなっていると考えられる祖父がいることも、明らかになった。

一方、「専門機関との関わりへの感想」としての祖父母たち（Aさん、Bさん、Dさん）の言葉からは、実子に対する自らの子育て経験や、自らのこれまでの夫婦や家族の関わりに裏づけられてのものと思うが、施設で出会う若い親や家族のありようを時に冷静な目で見つめていることがうかがえる。家族支援の展開・充実にとり大切な手がかりや基本理念を、時に祖父母から得たり祖父母を通して学ぶことができる、と言えよう。

障害やその告知は、祖父母の心理や精神状態に対して大きな、複雑な影響を及ぼすことが示唆される。その影響にも、障害の種類や程度、出生までの親との関係など、多くの要因が関係することが示唆される。出生後の長い時間的スパンにおいて、子ども（孫）が祖父母に、また祖父母が子どもや家族にどのような影響を及ぼすのか、それらに対して、専門

機関の家族支援を含む諸要因がどのように関与するのか、今後研究する必要がある。面接の対象になった祖父母たちは、〇園に通うことで子どもとの接し方、子どもに役立つ接し方を学べたと述べていた。専門機関において個別の相談時間を用意することは、とりわけ親代わりの存在となっている祖父母への支援策として有効と思われる。

専門機関における祖父母支援については、大きな期待を表明する祖父もいた。一方、Cさんの「あればいい。しかしお互いに壁があつての話になるんじゃないかと思う。」の言葉が示唆的であるが、祖父母の心理や関心事、障害観・障害児観や障害理解の程度、祖父・祖母の関係、祖父母の健康状態、祖父母と親や子どもの関係、支援やそのありようが親や子どもに及ぼす影響、個人差など多様な側面を考慮して、祖父母への支援は慎重に計画・実施されねばならないだろう。

### IV おわりに

以上のように、研究1では、難聴幼児通園施設への質問紙調査により、祖父母支援の状況、支援の必要性についての考え、子どもとその親に対する祖父母の影響についての考え、影響について「非常に好ましい」「非常に好ましくない」の両方のケースの有無とその内容、養育の負担が非常に大きい祖父母の有無、その事情と負担の内容等を明らかにした。研究2では、ある難聴幼児通園施設への子どもの送迎を含めて養育の負担が日頃かなり大きなものとなっていると考えられた4人の祖父母（祖父3人、祖母1人）に面接した。そして、祖父母の心理の一端（告知間もない頃の心境、子どもに対する日頃の思い）を捉えるとともに、通園施設との関わりに対してどのような感想をもっているのか、通園施設などの専門機関が意図的・計画的な祖父母支援を実施することについてどのような意見を持っているのか、明らかにした。

また研究1、研究2のそれぞれの結果と関連させて、通園施設やそれ以外の機関や場における祖父母支援のあり方や方向性について考察した。

祖父母に面接した施設（研究2）を含めて、全国に20ほどある難聴幼児通園施設には、聴覚障害と発達の遅れが重複する子どもや、聴覚障害の認められない発達に遅れのある子どもも多く通園している。

より総合的な通園センターや療育センターには、障害の種類や程度の異なる様々な子ども達が通園している。

本研究では、難聴幼児通園施設を対象としたが、それは確たる想定（例えば「難聴の子どもの祖父母は、他の障害の子どもの祖父母よりも多くの専門的知識を要する」、「大きな心理的・身体的負担を負う」、「親との関係もむずかしくなりがちである」）や、その根拠となる先行研究があつてのことではなかつた。今後は、祖父母の心理や、祖父母と子どもの関係・祖父母と親の関係等に対して、聴覚障害や自閉的傾向、知的な遅れといった障害の違いやその程度がどのように影響するのか、事例的な考察も含めながら検討する必要がある。またそのような検討を手がかりとして、通園施設などの専門機関における祖父母支援のあり方について、子どもの障害への行き届いた配慮に基づく「個」としての祖父母への支援（個別的支援）と、様々な障害の子どもを持つ「集団」としての祖父母への支援（集団的支援）の両面から、追求する必要もあろう。

さらに対象施設数や対象者数を増やして、また事例的アプローチを重視して、施設と祖父母の関係、施設における祖父母支援の実際、支援のありようとその効果との関係について、詳細かつ力動的な把握が今後求められる。

最後に、専門機関やそれ以外の機関ないし場（例えば、民間の非営利団体）における意図的・計画的な祖父母支援の有効性の検証や、それに基づく祖父母支援のあり方の一層の究明は、障害のある子どもの家族支援に関わるこれからの大きな課題であると思われる。

祖父母支援により祖父母が変化し（例えば、相談を通しての障害の理解や受容、ショックや不安の緩和・解消、子どもへの愛情の深まり。）、通園施設が祖父母にとって心休まる存在（支援者）となることにより、祖父母は、「恥」や「世間体」という心理的バリアで自ら意識的・無意識的に狭めてしまっていた人間関係や地域社会との関係を広げて豊かなものにしていけるかもしれない。また親（とりわけ母親）の方も、祖父母からの大きなストレスを軽減できたり、祖父母への心理的束縛から抜け出ることができたりして、地域の友人との関係をより豊かなものにしていけるかもしれない。ちなみに Green (2001) は、不満のない支援を祖父母から受けてい

る親ほど、祖父母以外の親類、隣人、友人などからの支援も享受しており、結果として親のノーマライゼーションも実現できているようだと、指摘している。

祖父母支援の有効性やその意義についての究明に関連して、家族や家族内での人間関係の範囲を超えた、より広範な人間关系的・社会的視座が求められつつあると言えよう。

## 文 献

- (1) 今野和夫 (1997) 障害児の祖父母. 障害者問題研究 (全国障害者問題研究会), 第25巻, 第1号, 77-85.
- (2) 今野和夫 (1998) 障害児の祖父母についての研究—同居の父方祖母に対する母親の意識を中心に—. 秋田大学教育学部研究紀要教育科学第53集, 45-53.
- (3) 金田昭三・今野和夫 (1997) 障害児の祖父母についての研究—通園施設における祖父母への支援—. 日本特殊教育学会第35回大会発表論文集, 686-687.
- (4) Fuller-Thompson, E., Minkler, M., & Driver, D. (1997) A profile of grandparents raising grandchildren in the United States. *The Gerontologist*, 37, 406-411.
- (5) Minkler, M., Driver, D., Roe, K., & Bedeian, K. (1993) Community interventions to support grandparent caregivers. *The Gerontologist*, 33, 807-811.
- (6) Rhoades, E. A. (1975) A Grandparent's Workshop. *The Volta Review*. 557-560.
- (7) Meyer, D. J., & Vadasy, P. F. (1986) Grandparent Workshops: How to Organize Workshops for Grandparents of Children with Handicaps. Seattle: University of Washington Press.
- (8) 今野和夫 (1992) 障害児の祖父母に対するサポート—アメリカ合衆国における取り組みを中心に—. 秋田大学教育学部研究紀要教育科学第43集, 101-109.
- (9) Green, Sara E. (2001) Grandma's hands: Parental perceptions of the importance of grandparents as secondary caregivers in families of children with disabilities. *INT'L. J. AGING AND HUMAN DEVELOPMENT*, Vol. 53 (1)

11-33.

### **Summary**

The role of grandparents in helping children with disabilities is an issue that has long been neglected despite its importance. The present paper reports the results of survey and interview research that was conducted with four grandparents who were playing a central role in helping their grandchildren with disabilities. The results indicated that the grandparents worried about the future of their grandchildren, even though a great deal of assistance was provided by the institutions for children with disabilities. The paper concludes with several recommendations for improving assistance to the people concerned.

**Key Words :** Grandparents of Children with Disabilities, Daycare Center, Formal Support

(Received January 22, 2003)